

# 私たちは心で歌う目で歌う合唱団 ニュース NO.5

サントリー第九公演本番 2012年5月6日(日)

本番当日まであと **三十五日!!** 残り練習回数(当日デネプロ含む) **七回!!**

♪ 次週 4月8日(日)の練習会場も、帝京平成大学 区民集会室 です ♪  
13時～【テノール】パート練習(小関志然先生)行います。ふるってご参加ください!!

合唱団員さんから一言…

学生時代の混声合唱以来、実に25年ぶりに“第九”のステージに立つことになりました。当時は第九は、他大学・団体など老若男女を超えた協働創作で、現代風に言えば“コラボ”というやつです…。もちろんそんな言葉すら無かったほど遠い昔の話ですけど(しかし年取ったなあ～)。

老眼鏡なくては楽譜も見えず(涙)、昔取った杵柄は見る影もありませんが、音ずれ、フラットもなんのそ  
の!?とにかく楽しく全楽章を味わえたら、それが一番です。 テノール:齊藤 充

※ 今週から、毎回お一人ずつコメントをいただきます。当選された方は、イヤがらずにお引き受け下さいね!!

## ① 募金缶開封第一弾!! 4月29日(日)に行います。

29日に募金缶持ってくる事が出来ない方は、21日(日)に持ってきて下さい。まだ、お持ちで無い方や、もう1個頑張ってみよう!!という方は、事務局までお知らせください。よろしくお祈りします。

## ② 参加券について 残り 107席 間もなく100席(枚)をきりますので、

参加券をご希望の際には、お手数ですがお振り込みの前に事務局までご一報ください。

現在、3月26日にお振り込みいただきましたお客様まで、発券を完了しています。

残りは、B席数枚とC席のみになります。SS席/S席は2月10日ご入金のお客様、A席は3月2日迄にご入金いただいたお客様で、完売となっております。

## ③ パート別人数内訳 合唱団員総数 263名 2012年4月1日現在

第五パート 69名 (うち車椅子 男声:6名 / 女声:10名) / 手話隊 9名

ソプラノ 64名 / アルト 60名 / テノール 24名 / バス 37名

エキストラの先生方(敬称略)が決まりました!!

ソプラノ:古田まり子(パートリーダー)・高橋千絵美・五十嵐美和子

アルト:安部啓子(パートリーダー)・森川朋子・田川理穂

テノール:小関志然(パートリーダー)・鹿内芳仁・田中充・大西貴浩・田口昌範・斎木智弥・関口純明・小林雄大

バス:小野慶介(パートリーダー)・古井孝・藤巻希美彦・鷲尾裕樹

よろしくお祈り致します!!

みきこのつぶやき…

今回は湯川先生が私達に激を飛ばして下さったことについての思いを語ります。感謝!感謝!! 感謝でいっぱいです。

今日は練習行くのが辛いな～あ!私事ですが、一度辞めようと思いましたが、辞めて何が残ったでしょう。やる気の無さが一層増し、声が出にくくなり、しゃべりにくくなっていきました。が、ふたたび合唱団員の方達が出迎えてくれて戻ったら元気になって毎日が楽しいです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。湯川先生が私達に激を飛ばし、感受性の強い人は泣いていたけど、クラシック界では日本一のサントリーホールで歌う意味、世界一と誇るカーネギーホールで歌う意味を再度考えて!ひとり、ひとりが心に感じながら歌うでしょう。姥山さん、先生方、声の応援団の方々、そして家族…。みんなに支えられていることを忘れずに一生懸命練習に参加して、元気にみんなが舞台に立てるように体調を整えながら行きましょね。

実行委員:林田美貴子(\*^.\*^)

《湯川晃先生です》

僕たちの合唱団の合唱指導をしてくれる先生です。僕たちの事を一番に考えてくれます。いつも汗をかきながら、わかるまで何度も繰り返し教えてくれます。

実行委員:宮坂和磨



#### ④ 3月15日(木) “レッツ音楽” 教室内での取材が報道発表されました。

豊島区公式ホームページ内 > トップページ > 広報 > 報道発表 > 障害者たちがプロのオーケストラと第九を公演します！

### 障害者たちがプロのオーケストラと第九を公演します！

## 特定非営利活動法人 NPO 「ゆきわりそう」 25 周年記念

報道発表日：平成 24 年 3 月 16 日

問い合わせ：NPO 法人ゆきわりそう 電話 03-3950-2002

来る平成 24 年 5 月 6 日(日曜日)に、サントリーホールにおいて、「私たちは心で歌う目で歌う合唱団」による「21 世紀の平和のために歌う『祈りのコンサート』」が開催される。同合唱団は、障害者の自立支援を目的に活動する区内 NPO 法人「ゆきわりそう」を母体とし、障害者の心に響く文化的な活動基盤として 1989 年に発足、障害者やその支援者、地域の方々等で構成される。(団員数：82 名)これまで国内はもとより、ドイツやニュージーランドなど海外での公演活動も展開しており、特に 2000 年には、ニューヨークのカーネギー・ホールで公演し、大成功を収めた実績を持つ。

「第九」の合唱は、世界一難しい楽曲と言われる。その「第九」を障害者が歌うために、同合唱団がレパートリーとする「第九」には、ソプラノ、アルト、テノール、バスに加えて、狭い音域で編曲された「第 5 パート」が存在する。これにより、高音を発声しづらい障害者も参加でき、ハーモニーに厚みが増すとともに、障害のあるなしの壁を越え、「平和への祈り」を歌い上げる連帯の力強いメッセージが込められる。

同合唱団は、「目指せサントリーホール！目指せカーネギー・ホール！」を合言葉に毎週日曜日に練習を重ねている。その夢のひとつである、国内有数の音楽ホール「サントリーホール」でのコンサートが、NPO 法人「ゆきわりそう」創立 25 周年を記念して実現することになり、また平成 24 年度に区制度施行 80 周年を迎える豊島区も周年記念事業として同コンサートを支援することになった。

当日に向け、練習を重ねている参加者に感想等を尋ねた。

(林田さん)「サントリーホールでクラシックを聴きたいと思っていましたが、先に舞台に立つことになったのでびっくりしました。」(藤井さん)「(父親も以前一緒に第九の合唱をしていたことから)お父さんの分まで頑張りたいと思います。」(原田さん)「まさかあんな有名なところで歌えるとは思わず、ただただびっくりしてしまいました。聴きにきてくれる皆さんのためにも責任感のようなものが湧いてきて、よしやるぞ！という気持ちになりました。」と意気込みを見せた。

合唱の指導に当たる古田まり子先生は、「ドイツ語で歌えるようにみな頑張って覚えて一生懸命練習をしています。本番が近くなり気合が入ったのか、笑顔の中にもしっかりした顔つきがみられます。」と参加者のたゆまぬ努力にエールを送った。

当日のステージでは、東京フィルハーモニー交響楽団や、指揮者・ソリストなども参加し、約 80 名の障害者とともに、総勢 300 名による大パフォーマンスが繰り広げられる。さまざまな障害がある方々それぞれの個性を活かし、平和のために世界に向けて第九を歌い上げるこの感動を、ぜひ会場で体感してみたいだろうか。

※ 本編は、カラーの写真が 2 枚掲載されています。是非、ご覧ください。

#### ⑤ ゆきわりそうグループ祭 参加のお願い！

2012 年 4 月 7 日(土) 14 時～16 時半 東京都障害者総合スポーツセンター 体育館にて

1 ヶ月後に迫った「サントリー第九公演」、約 500 人のゆきわりそうの仲間達に、紹介・宣伝活動をしたいと計画中。沢山の合唱団員が集まれば、【M】を披露できるかな?! みなさんの参加、お待ちしております!!